

# 道徳のかけ橋

平成26年7月7日発行  
第 1 号  
福 島 県 教 育 庁  
義 務 教 育 課

## 道徳教育だよりを発行します



現在、文部科学省では、道徳教育における様々な課題を考慮し、教科化に向けた検討が進められています。

一方、福島県教育委員会では、震災を経験した福島県だからこそ、子どもたちに、改めて「命」「家族」「思いやりの心」「地域の絆」などの大切さについて考えさせたいという思いから、県独自の道徳資料「第I集『生きぬく・いのち』」「第II集『敬愛・つながる思い』」を作成し、福島ならではの道徳教育を進めています。

今回、本県の道徳教育の充実に向けて、道徳教育だより「道徳のかけ橋」を発行することにしました。教壇に立ち、日々がんばっている先生方と県教育委員会との道徳教育の充実に向けたかけ橋となることを願っています。

## 道徳教育の課題

～なぜ、教科化が進められているのか～

戦後、我が国の道徳教育は、学校教育全体を通して行うという方針で進められてきました。昭和33年の学習指導要領の改訂によって「道徳の時間」が設置され現在にいたっています。有識者会議（道徳教育の充実に関する懇談会）の報告の中で、道徳教育は、個々の学校では創意工夫ある優れた実践が行われているが、全体としてとらえると多くの課題があり、「道徳教育の目指す理念が関係者に共有されていない」「教員の指導力が十分でない」「他教科に比べて軽んじられている」など、期待される姿に遠い状況にあると指摘されています。

そのため、道徳教育の抜本的な改善・充実を図っていく上で、新たな枠組による教科化の必要性が高まってきました。

平成26年5月19日に実施した福島県道徳教育推進協議会において、東京学芸大学の永田繁雄教授が講演の中で、有識者会議の報告を裏付ける調査結果を紹介していただきましたので掲載します。

【教科等の好き嫌い(道徳)】  
「とても好き」「まあ好き」を合わせた割合

小学4年	58.4%
小学6年	42.8%
中学3年	37.2%

(文部科学省：H17「義務教育に関する調査」グラフから数値のみを抜粋)

### 小・中学校の頃に受けた道徳の時間についての感想

- そんなの当たり前と思うようなことばかりだった。でも、それをやるのが道徳なのだろうと思った。
- 国語の授業との違いがあまり分からなかった。物語文の読み取りと何が違うのだろうかと思っていた。
- 先生によって取り組み方が全く違っていった。
- 担任の先生も、イマイチ何をしてよいのか分からない様子で混乱していることが多かった気がする。
- 道徳の授業は他の教科などに比べて、教師の熱意が低かった。
- 「毎日の生活で道徳は学ばれるので、授業はしない」という考えの先生もいた。
- 運動会や合唱祭練習に当てられた。
- 教科などの息抜きという感じで受けていた。
- 道徳の教科書はほとんど使われなかった。
- 挙手して発言すると「まじめ」「いい子」と思われそうで、発言しにくかった。
- 当たり前のことを改めて言っているような印象。常識さえあれば、いじめっ子も「いい子」を装う。

(東京学芸大学永田繁雄教授が平成24年秋、大学2年生を対象としたアンケートからの抜粋)

# 教科化は、今、どのように進んでいるのか

平成25年2月、安倍内閣に設置された教育再生実行会議が、いじめ問題等への対応についてまとめました。その中で、いじめの問題が深刻な状況の今こそ、道徳教育の重要性を再確認し抜本的な改善・充実を図るとともに、新たな枠組みによって教科化することが提言されました。その提言のもと、3月、文部科学省に「道徳教育の充実に関する懇談会」が設置され、有識者等による10回の審議が行われました。その成果は12月26日「今後の道徳教育の改善・充実方策について(報告)」(文部科学省ホームページに掲載)としてまとめられました。平成26年2月17日、下村博文文部科学大臣は、小中学校の道徳を教科にするための具体的な制度づくりについて、中央教育審議会(文科相の諮問機関)に諮問しました。今秋に答申が出るのではないかとされており、中央教育審議会は審議を続けています。

## 「私たちの道徳」について



## 「私たちの道徳」の活用Q&A

Q:「私たちの道徳」の活用について、どのような場面が想定されますか。

A:道徳の時間の活用とあわせて、次のような場面での活用が考えられます。

- 学校や家庭の日常生活の中で子ども自らが活用する。
- 各教科や外国語活動の学習内容との関連で活用する。
- 総合的な学習の時間の動機付けや自己の生き方を考える際などに活用する。
- 特別活動の各内容と関連させて活用する。
- 学校・家庭・地域の連携を深める場で活用する。家庭に持ち帰らせて活用することで家庭や地域全体で道徳教育の充実を目指していく。
- その他、各学校間の交流の際などに活用する。

Q:「私たちの道徳」は、現在学校で使用している道徳の副読本に代わるものですか。(「私たちの道徳」があれば、道徳の副読本は必要ないのですか。)

A:「私たちの道徳」だけで一年間の道徳の時間を展開することはできません。例えば学習指導要領に示された小学校1, 2年の内容項目は全部で16ありますが、「私たちの道徳小学校1・2年」にある読み物資料は12編で、すべてをまかなうことはできません。したがって、現在使用されている副読本と、地域資料等、そして、「私たちの道徳」をあわせて活用いただくことになります。



Q:「私たちの道徳」の活用事例集はないのですか?

A:現在文部科学省で作成中です。今年度中に配付する予定です。なお、『心のノート』を生かした道徳教育の展開(文部科学省ホームページ [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/doutoku/detail/1332340.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/doutoku/detail/1332340.htm))の内容も「私たちの道徳」を活用するうえで大変参考になりますので、ぜひご覧ください。

Q:道徳が教科化されると「私たちの道徳」が「道徳の教科書」となるようなことを聞きましたが.....

A:「道徳の教科書」については、今の段階では未定です。教科化の動向に合わせて、今後明らかになってきます。現状では上に記したような活用をお願いいたします。

